

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

今年の全英オープンには、例年にも増してたくさんのお話を提供してくれた。日本では、全英オープンと呼ばれているが、正式には「The Open Championship」。全英やゴルフという言葉は入っていない。このあたりにゴルフ競技の歴史とイギリス人の誇りが感じられる。つまり、第1回目の開催時には他の選手権はまだなかったのである。因みに、この大会が始まったのは、1860年。日本でいうと、徳川幕府から明治維新へと歴史がうごめいていた頃、桜田門外の変の起きた年だ。The Openは、大西洋の海岸と陸地の境界線に当たるリンクスと言われる、温度差の激しい、風の強いエリアで開催されるため、最終日の18番ホールまで、何が起ころかわからない。マスターズや、全米オープンなどのメジャー大会もコース設定はそれなりに難しいが、全英の難しさは、自然が時として選手の技量をはるかに超え、まさに神様の力を借りなければ、優勝に手が届かないというところにある。

今年、タイガー・ウッズが10年ぶりにメジャー優勝に手が届くところで4日目を迎え、昨年優勝のジョーダン・スピースとの差はわずかなものだった。残念ながら、日本の松山選手は予選落ちしたものの、宮里選手と小平選手がそれぞれいい位置をキープしていた（宮里選手は通算3オーバーの47位タイ、小平選手は通算1オーバーの35位タイで終えた）。

世界のゴルフファンが待ちに待ったタイガーの復活に、現地では数千人のギャラリイが常にタイガーと共にホールを移動し、またこれに添えるように、前半の HALF ではタイガーは首位に躍り出た。後半に入ると、3日目まで9アンダーにいたトップグループは、各選手ともスコアを落とし、8アンダー、もしくは7アンダーを優勝ラインとして10名の選手が競い合った。結局、最後に今大会を制覇したのは、フランチェスコ・モリナリ選手で8アンダー。名前でお分かりのとおり、彼はイタリア人であり、イタリア人初のメジャー優勝という偉業を達成した。

トーナメントが行われたスコットランド、カーヌステイ・ゴルフリンクスは私たちの人生と似ている。本人がベストと思うことが、ひとつ間違えると最悪の事態を招いたり、また大きなリスクと思われたことが実は最大のチャンスに変わったりする。30メートル近い信じられないパットを沈める奇跡もあり、30センチのパットが入らない不運もある。次にカーヌステイで開かれるのは、10年後の2028年あたりになるであろうか。その頃、地球がどうなっているであろうか、誰も予想がつかない。

トーナメント終了後に、久々にコースを一人で歩いている。グリーンのあちこちにまだ試合の興奮が残っている。ゴルフというスポーツの面白さを改めて肌で感じている。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。